令和3年度第10回理事会議事概要

日 時 : 令和4年1月7日(金) 15:30~16:47

場 所 : 森林総合研究所特別会議室(つくば市)

出席者	理事長	浅野 透
	理事(企画・総務・森林保険担当)	矢野 彰宏
	理事(研究担当)	坪山 良夫
	理事(育種事業・森林バイオ担当)	今泉 裕治
	理事(森林業務担当)	志知 雄一
	理事(法令遵守担当)	井田 裕之
	監事	鈴木 直子
	監事	高橋 正通
	総括審議役	寺川 仁
	総括審議役	中西 誠
	総括審議役	石原 聡
	審議役	森谷 克彦
	企画部長	小林 功
	総務部長	青柳 浩

1. 開会

(寺川総括審議役)

令和3年度第10回理事会を開催いたします。

本日は報告事項が7件です。順次説明をお願いします。

I-1 令和4年度予算概算決定の概要について

(矢野理事)

昨年12月24日に令和4年度当初予算案が閣議決定されています。2ページ目に全体の予算のポイントを付けていますが、令和3年度補正予算と一体として新型コロナ対策に万全を期しつつ「成長と分配の好循環」による「新しい資本主義」の実現を図るための予算とされています。成長戦略として、「科学技術立国」の観点から、過去最高の科学技術振興費を確保するとされており、デジタル、グリーン、AI等のキーワードが並んでいます。また、デジタル庁が新しく発足したことで、情報システム関係予算が一括計上されているあたりが例年と変わっているところかと思います。分配戦略については、人への投資を推進するという一方で、新型コロナ関連を含めてさまざまな予算が措置されているところです。3ページ目、4ページ目はそれぞれの分野の特徴が書かれています。

林野庁関係予算については5ページになります。左から2番目の欄が今回の概算決定額になります。大きく公共事業費と非公共事業費に分けられますが、一般公共事業費については1,869億円、前年度比100.1%、治山事業費、森林整備事業費とも同じ伸び率になっています。森林整備事業費の中に水源林造成業務の予算が入っています。非公共事業費については1,013億円ということで、前年度比95.2%となっており、こちらに研究所の運営費交付金等が入っています。

6ページ以降は重点事項で、主なものを紹介します。1番目はカーボンニュートラル実現に向けた森林・林業・木材産業によるグリーン成長という項目です。その中で、④森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策等については、ほぼ非公共事業の予算で、これが一つの目玉だったわけですが、その内容が7～8ページのA～カになります。Aの「新しい林業」に向けた林業経営育成対策、カのカーボンニュートラル実現に向けた国民運動展開対策は新規の予算です。

13ページは、研究・育種勘定の運営費交付金になります。102.8億円、前年度比約98%の予算額となっています。この中には人件費も含まれており、想定される定年退職者の数によって退職金を積算していますので、そういったところで予算額が減っています。運営費交付金の中にデルタ経費という一時的に必要な金額を要求できる部分がありますが、デルタ経費については今年度2.4億円のところで、来年度は3億円を超える額が計上されており、財務会計システムの更新関係等要求した項目はすべて認めていただきました。施設整備費補助金については、2.9億円、前年度比約134%と大幅に増額されており、林野庁全体の非公共事業予算が非常に厳しい中でこれだけ予算を付けていただいたというのは大変ありがたいことだと思っています。これに加えて令和3年度の補正予算が2億円ほどありますので、これと併せてしっかり執行していく必要があります。

13ページ以降は志知理事から説明をお願いします。

(志知理事)

森林整備事業中の水源林造成事業費について、概算決定額は252億円で全体と同じ比率になっております。

新規事業の話ですが、造林未済地解消対策が新しい取り組みになります。内容は主伐後に再造林が行われず放置されている未済地が増えてきていることから、その対策として、水源林造成事業を使うという発想です。具体的には土地所有者から市町村、森林組合に所有権を移転、寄付してもらうことが大前提になっており、寄付してもらった市町村等が森林整備センターと分収造林契約を結ぶという内容になっております。

従来からの事業については説明を省略させていただきます。

(高橋監事)

施設整備費補助金で認められた木の酒研究棟新設について、本所構内に作り研究を進めるということでしょうか。

(坪山理事)

現在は千代田試験地で研究を進めていますが、本所構内で研究を進めることにより社会に出すのを加速化させようという趣旨です。

(高橋監事)

安全性等について、あまり積極的に取り組んでいないように思うのですが。

(坪山理事)

イノベーション事業の方で安全性を確認することも含めたプロジェクトに取り組んでおり、安全テストについてもデータは積み上がってきている状況です。

I-2 第13回国立研究開発法人協議会総会について（非公表）

※坪山理事から本件の説明が行われた。

I-3 令和4年度4月森林総合研究所の研究職員の採用について（非公表）

※小林企画部長から本件の説明が行われた。

I-4 不妊治療のための特別休暇（有給）の新設等について

（一職員就業規則及び非常勤職員就業規則の改正一）

（青柳総務部長）

国においても職員の不妊治療、出産・育児、介護を支援する動きが強まっているところですが、当機構においても不妊治療、出産・育児、介護を支援するために職員就業規則等の特別休暇の規程を改正しまして、令和4年1月1日から施行しているところです。1つは常勤職員、非常勤職員につきまして、不妊治療のための有給の特別休暇を新設し

たということです。原則年5日、頻繁な通院を要する場合は5日を加算するという内容になっています。また、非常勤職員に対し、これまで無給だった「配偶者出産休暇」、「育児参加のための休暇」、「産前休暇・産後休暇」、「短期介護休暇」を有給化しています。

(井田理事)

掲示板で見たのですが「出生サポート休暇」という通称を付けているのでしょうか。

(青柳総務部長)

そうなります。

(鈴木監事)

不妊治療のための特別休暇、すごく良いことだと思います。

最近、新聞等で見たのですが、生理休暇について職場内で言いづらい環境のため、年次休暇で対応する場合があると書いていました。不妊治療についてもそういうことを考慮しなければならないと思いました。

また、そういうことを言える職場であると同時に、休暇を取得できる環境に感謝していただき、取得する側の気持ちも醸成できれば良いと思いました。

(井田理事)

生理休暇は認められていますよね。

(鈴木監事)

認められてはいるものの取りづらい環境の職場があるようです。

(浅野理事長)

不妊治療もなかなか言いづらいかもしれません。

(矢野理事)

そういうこともあって「出生サポート休暇」という通称をつけたということですよね。

(浅野理事長)

言い方を変えるだけですが、休暇の取り易さは変わるかもしれません。

I-5 財政融資資金実地検査について（経過等報告）（非公表）

※中西総括審議役から本件の説明が行われた。

I-6 令和3年度保険料収入及び保険金支払の実績（暫定値）について（非公表）

※石原総括審議役から本件の説明が行われた。

I－7 公益通報者保護法の改正及び機構公益通報処理規程の改正（案）の検討について（非公表）

※井田理事から本件の説明が行われた。

II. その他

（鈴木監事）

行事予定の中に多摩森林科学園創立百周年記念式典とありますが、何か特別な式典をやる予定はあるのですか。

（浅野理事長）

今の時点では2月21日（月）に多摩森林科学園で式典を行う予定ですが、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては簡略化される可能性もあります。

（寺川総括審議役）

他に質問がなければ、これで令和3年度第10回理事会を終了いたします。

次回は令和4年2月4日（金）、開催方法等については後日連絡させていただきます。

3. 閉会